

SABO NEWS LETTER

第 101 号【発行日】平成 22 年 1 月 4 日（月）【発行】（社）全国治水砂防協会

目 次

1 . 目次・行事予定	1
2 . 国土交通省砂防部長より新年のご挨拶	2
3 . （社）全国治水砂防協会理事長より新年のご挨拶	4
4 . （社）全国治水砂防協会 平成 22 年開催会議等予定表	5

行 事 予 定

（国土交通省砂防部）

2010/1/28 ～ 29 雪崩防災シンポジウム（栃木県日光市）

（全国治水砂防協会）

2010/2/10 中山間地の防災を考える IN KYUSHU（宮崎県高千穂町）

2/25 理事会（シェーンバッハ・サボー「霧島」）

2/27 中山間地の防災を考える IN TOKAI（岐阜県高山市）

3/11 ～ 12 第 50 回砂防および地すべり防止講習会

（シェーンバッハ・サボー「利根」）

ご質問、ご意見、ご感想、記事の詳細内容等、お問合せ先

社団法人 全国治水砂防協会

住所：〒 102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-5 砂防会館内

電話：03-3261-8386 FAX：03-3261-5449 E-mail：kyokai@sabo.or.jp

砂防に関する最新情報は砂防協会ホームページをご覧ください。

<http://www.sabo.or.jp/>

謹賀新年

「未来へのメッセージ」

会員の皆様も健やかな新年をお迎えになったこととお慶び申し上げます。

田子の浦ゆうち出でてみれば真白にそ富士の高嶺に雪は降りける

お目でたいものの代表に富士山があります。富士山はその美しい山体から並ぶものが無い、不二の山、「富士山」といわれる様になったとも伝えられています。

富士山は偏西風の影響を受け、噴出物が東に流されることから、西に勾配が厳しい構造となっています。その西斜面に富士山最大の崩壊地大沢崩れがあります。幸田文の小説「崩れ」にも紹介されるこの崩れは、富士山頂から裾野まで達し、最大幅500m、深さ150mに及びます。

この大沢崩れは現在も拡大を続け、30年間で崩壊幅は60m拡大し、年平均約14万 m^3 の土砂が下流の潤井川に流れ出ています。

このため、昭和44年から国土交通省（当時は建設省）富士砂防事務所で大沢の砂防工事が始まりました。扇状地の遊砂池の工事からスタートし、現在は五合目付近でも浸食が拡大しないよう対策を進めています。現場は標高2,000m付近とあって、非常に困難な工事となっています。

（次頁に続く）

また、富士山は宝永4年（1707年）に大噴火を起こしています。この様子は新井白石の「折りたく柴の記」にも記載がありますが、江戸の街にまで火山灰が降り注ぎました。現在の神奈川県を流れる酒匂川の流域でも、火山灰は最大3mもの厚さに降り積もり、農民の暮らしを直撃しました。降灰の影響で川底が上がり、雨のたびに川は氾濫し生活は困難をきわめました。このため復興は幕府の手にゆだねられ、徳川吉宗の指導のもと、一時的に小田原藩の一部は天領として統治され、復興後また小田原藩の元に還っていきしました。日本の象徴富士山もこうした歴史の中で今日も美しい姿を現しています。

昨年末に平成22年度予算が閣議決定されました。厳しい予算ではありますが、この中には地方の利便性に鑑み災害関係事業を除き、補助事業を交付金化することが含まれています。地方のご要望をどの様に実現するかが課題となります。こうした意味で各市町村長さんが砂防へのご期待をご発言されますことがますます重要となります。

今年は自分の住む地域の成り立ちとその災害史に着目しては如何でしょうか？地域の災害史は未来へのメッセージを託しています。

国土交通省砂防部長

まきの ひろし
牧野 裕至

平成22年 新年のご挨拶

(社)全国治水砂防協会
理事長 岡本 正男

新年明けましておめでとうございます。皆様には、新たな気持ちで良き新年をお迎えと存じます。

今年は、砂防協会が法人となって70年目の年になります。昭和初期の大恐慌を受け、昭和7年から9年まで農村の疲弊を救う手段として時局救匡砂防事業を大幅な予算増の下、中山間地を中心に展開しました。ところが、昭和10年には時局救匡砂防事業が中止され砂防予算が大幅に減少する一方、昭和9年の室戸台風で全国に大きな被害が続出し、砂防事業の施行地とそうでない地域の被害の差が歴然となりました。砂防事業の必要性を痛感した長野県県会議員数名が、当時の内務省技師の赤木正雄先生に働きかけ、昭和10年に砂防協会が発足しました。昭和13年には支部数も23府県に及び、協会の組織も整備する必要もあり、昭和15年に内務省認可の社団法人になりました。支部は35府県、会員数は2,690市町村を数えました。

社団法人設立から70周年目を迎え、人生でいえば、古希を迎えることになります。協会の歴史を辿れば数多くの出来事がありましたが、その理念「砂防事業を理解する国民の力を結集し、世論を喚起し、砂防事業の発展に邁進する」は不変で、砂防事業の発展、推進のための多様な活動を続けてきました。

昭和56年に近代砂防事業が開始されて100年を祝う記念事業が全国で実施されました。協会は記念事業の一環として1,368ページにわたる大著「日本砂防史」を発刊しています。その後30年近くを経て、法律や制度、組織、予算、砂防関係事業、海外協力、学会や研究、砂防関係団体等の分野について、変遷あるいは新しく生まれるなど歴史を重ねてきました。70周年を記念として、「日本砂防史」(仮題)の編集に取り組んでいきたいと思ひます。

昨年の予算編成は予算配布のシステムが変わり、より地方の意向が反映される一方、地方がどういうビジョンのもと、安全・安心を確保していくかが問われると思ひます。縁の下の力持ち、言いかえれば、日頃は目立たない地味な砂防をどう地方は考えるのか、是非、不幸な災害を繰り返さないよう、会員の皆様と一緒に声を出して砂防関係事業の推進に努めていきたいと思ひます。

会員の皆様には、本年も引き続き砂防関係事業の発展、砂防協会の運営にご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(社)全国治水砂防協会 平成22年開催会議等予定表

開催月日	時間	事 項	場 所
2月25日(木)	16:30	理事会	シエソバ ヲハ・サホ - 3階 霧島
3月11日(木) ～ 12日(金)	10:00	第50回砂防および 地すべり防止講習会	シエソバ ヲハ・サホ - 1階 利根
5月12日(水)	11:00	監事会	本館 特別会議室
5月18日(火)	11:00	評議員会	シエソバ ヲハ・サホ - 3階 六甲
	12:00	代表参与会	本館 特別会議室
	13:00	理事会	シエソバ ヲハ・サホ - 3階 霧島
	14:30	参与会	シエソバ ヲハ・サホ - 3階 穂高
	16:00	直轄事務所長連絡会	シエソバ ヲハ・サホ - 3階 立山
	16:30	賛助会員情報連絡会議	シエソバ ヲハ・サホ - 3階 霧島
5月19日(水)	11:00	第74回通常総会	シエソバ ヲハ・サホ - 1階 利根
7月21日(水)	11:00	第1回理事・顧問会議	シエソバ ヲハ・サホ - 3階 霧島
10月20日(水)	10:30	第4回防災担当者のための 土砂災害防止実務講習会	シエソバ ヲハ・サホ - 1階 利根
10月27日(水)	16:00	第2回理事・顧問会議	シエソバ ヲハ・サホ - 3階 霧島
11月29日(月)	11:30	代表参与会	本館 特別会議室
	14:30	参与会	シエソバ ヲハ・サホ - 3階 穂高
	16:30	賛助会員情報連絡会議	シエソバ ヲハ・サホ - 3階 霧島
11月30日(火)	11:00	全国治水砂防促進大会	シエソバ ヲハ・サホ - 1階 利根